

1. 事業細目：外来魚資源抑制対策実験事業
2. 研究名：ブルーギルの漁獲特性について
3. 研究期間：平成元年度～3年度

予算額 4,073千円
予算区分 国 委

4. 担当者：岡本

5. 目的

網エリでのブルーギルの漁獲状況を把握し、捕獲による資源抑制の基礎資料とする。

6. 方法

- 1) 今津地先の網エリにおいて、ブルーギルの漁獲状況を把握した。
- 2) 調査期間は平成3年2月1日から5月20日、平成3年11月21日から12月5日の2回である。
- 3) 網エリのツボ網の離岸距離は約150m、ツボ網の水深は約12mであった。
- 4) ブルーギルの漁獲と気象の関係を調べるため湖岸水温は水産試験場水象観測塔のデータから、平均気圧と最低気温は滋賀県気象月報から引用し、今回の漁獲状況と比較検討した。

7. 結果の概要

- 1) 今津地先の網エリでは、ブルーギルは2月と11月に多く漁獲され、それぞれの1日平均漁獲量は21kg、43kgであった。3月から5月は5kgから0.7kgに低下し、網エリでの漁獲は少なくなった(図1)。

しかし、南湖では5月から7月に離岸距離約20mの所で桁網に多く捕獲されており、ブルーギルは水温の上昇とともに接岸したため沖合にある網エリでの漁獲が少なくなったと思われる。

従ってブルーギルの場合、冬期は沖合に夏期は沿岸に定置網を設置すれば、周年捕獲することができる。

- 2) 次に漁獲と気象の関係は、定置網漁業におけるブリの漁獲量と低気圧について多く報告されており、一般に低気圧の通過が大漁をもたらすといわれている。今回の調査から琵琶湖におけるブルーギルについてもその傾向がみられた。ブルーギルは2月11日に140kg、2月16日に150kg、11月29日に170kgと多量に漁獲されたが、3日とも前日に気圧の低下と最低気温の上昇がみられた。その時の平均気圧と最低気温は、2月11日が1002.4mb、3.7℃、2月16日987.1mb、

2.4℃、11月29日1004.0mb、7.9℃であった(図2、図3)。

以上の結果からブルーギルの季節的な漁獲の変化は水温の変化に、また冬期における漁獲の日変動は低気圧の通過に大きく影響されることがわかった。

8. 主要成果の具体的数値

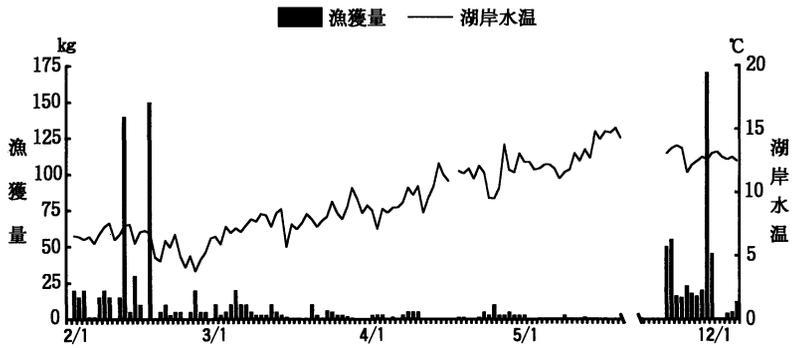


図1 漁獲量と湖岸水温

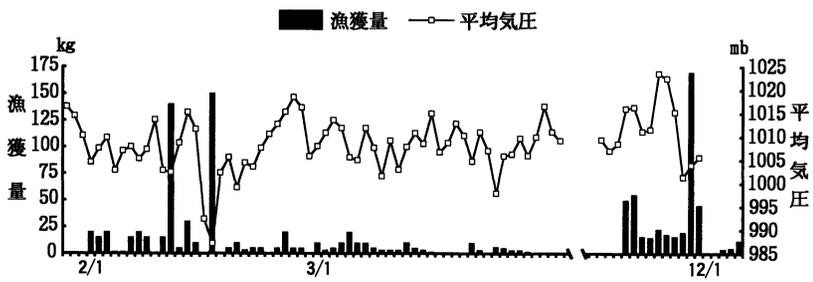


図2 漁獲量と平均気圧

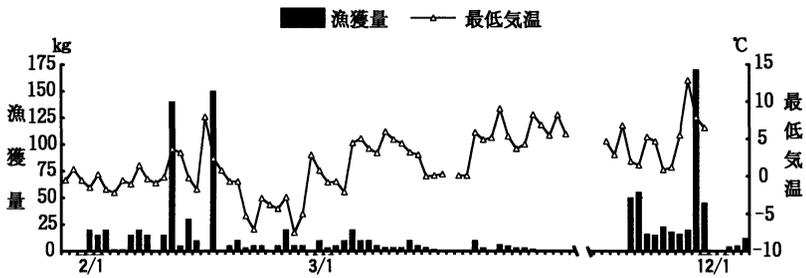


図3 漁獲量と最低気温

9. 今後の問題点

地形等による影響も考慮し、さらに統計的な解析が必要である。

10. 次年度の具体的計画